

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270600356		
法人名	有限会社 十和田だいち		
事業所名	グループホーム はなは		
所在地	青森県十和田市大字藤島字中道52-1		
自己評価作成日	平成28年8月1日	評価結果市町村受理日	平成28年12月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号
訪問調査日	平成28年10月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームはなは代表取締役で、母体医療法人運営者でもある代表は、開設当初から入居者様を第一に尊び、敬い、優しく、大切にとの思いは揺るぎなく、事ある毎に言葉にされたり、触れ合っている。また、医療面に関しても絶対的安心の下、職員は運営方針とすり合わせ、志気を高め、入居者様への日々の生活支援、ケアに勤むことができており、職員の就労や健康面、人材育成、質の向上のための研修にも積極的に支援をいただいている。関連施設間で医療、看護、介護の3軸で展開されている「60歳からの主張、弁論の集い、作品展」は地域に浸透されつつあり、全戸に案内書を配布したり、掲示して、随所において協力をいただいている他、地域で行われた地域包括支援センターと地区合同での「認知症高齢者徘徊模擬訓練」にも、地域のグループホームとして職員が多数参加し、地域住民の方々と相互に支え合い、助け合う姿勢が更に示されている。職員は基本理念である「心が癒やされ安らぎのある家庭的な家」を常に心がけ、入居者様が笑顔で暮らせるよう向上心を持ち、やりがいを感じながら、日々、入居者の皆様と接している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念、方針である「心が癒され安らぎのある家庭的な家」「地域社会との交流を深め、地域に貢献し愛される家」を基に、年度初めに個々の目標を設定し、前年度の反省を行い、振り返りの際は理念を紐解き、全職員が意思統一した方向になるよう取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域の一員として交流できる機会を設けている。日々の挨拶や地区行事の夏祭り、神社祭りに参加したり、野菜の差し入れ等は日常的に行われている。関連施設での作品展や老人の集いでは、案内書を全戸に配布・掲示していただき、弁論大会や作品展でも協力していただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	母体と共に医療、介護面での困り事や知りたい事の窓口となり、パンフレットを配布して、いつでも相談に応じる旨を伝えている。町内会の行事や総会、運営推進会議においても入居様と接点を持つ中で、認知症を抱えた方々に対する理解を深めていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を年6回、定期的に行い、町内会長や老人クラブ会長、保健協力員、ご家族、市職員が参加している。年と共に内容が偏りがちではあるが、皆様から助言をいただきながら、施設の報告はもちろん、家庭での日常生活でも役立つ事等の勉強会も行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターと連携を図り、キャラバンメイトや地区住民、在介、その他事業所様、全職員を交えて認知症徘徊高齢者模擬訓練へ参加したり、市の担当者の方々とは運営推進会議の他、各種相談がある時やその都度連絡を取り、ご指導いただく等、適正な運営やサービスの質の向上に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年度初めの現任研修において、身体拘束について再確認し、物理的な身体拘束だけでなく、行動抑制となる言葉は使わないよう、全職員が相互に日々のケアの振り返りを行い、安全面の配慮や自由な暮らしに向けて取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と併せ、高齢者虐待予防についても全職員が内部研修を受け、知識の確認をしたり、日々のケアを振り返り、不適切な関わりがないか、それぞれが意識を高めて持ち話し合いを重ねている。また、入居者様が日々不愉快な思いをしないように、接遇も含めて取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する内部研修を行っている他、今までに何人も利用された方がおり、現在は1名利用し、成年後見制度利用も2名おり、最近まで利用されていたため、職員は周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の見学時から相談に応じ、契約時には必ず管理者が契約についての説明を行い、不明な事や不安な事については誠実に対応し、同意を得ている。入居後であっても不明な点については、安心いただけるまでいつでも説明することをお話している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の暮らしの中で入居者様の思いや意向を把握できるよう丁寧な関わりを目指し、ご家族へは面会時に声をかけ、意見や要望を出しやすい雰囲気づくりを行っている。重要事項説明書や目の付く所に相談・苦情体制を掲示したり、要望、苦情箱も設置している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1日2回の申し送りや各館のミーティング等で意見を聞いたり、話し合いを行い、管理者は日頃から職員との関わりを大切して要望等を汲み取りながら、話しやすい環境づくりに努めている。3ユニット間での職員の異動は不定期に行われるが、日頃から交流を持ち、馴染みやすい関係ができてきているため、入居者様の混乱は今までに確認されていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	職員の生活環境を考慮し、休みの希望はほぼ受け入れ、急な勤務変更であっても3ユニットで協力し合い、働きやすい職場環境づくりを行っている。年1回の健康診断や、インフルエンザの予防接種を行い、再検必要な人には必ず再検していただき、代表者は健康面でも配慮しており、職員は安心して就労できている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は外部研修への参加を大いに推進しつつ、法人や関連施設で企画する研修の参加、人材育成部が開催する初任者研修受講等にも、惜しみなく、一人ひとりに配慮している。また、スーパーバイザーを交えて全職員による全体会議を毎月持ち、職員の積極的な取り組みや意識向上となっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームと定期的に交流を持ったり、同業者が行っているケアの情報を参考にしている他、系列内で行われる勉強会に参加し、そのような中で得た知識を、入居者様のケアに反映させている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居にあたり、環境の変化に戸惑う本人の不安感を共感的態度で傾聴し、その中で不安要素を見つけ、取り除けるような話しかけや、本人が望む支援のあり方を検討している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	認知症の方を抱えるご家族の苦悩に共感的態度を示し、労い、新しい生活に向けての希望やご家族の役割について一緒に考えている。また、不安や疑問がないか丁寧に聞き取り、誠意を持って対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「今、現在」の本人の状態や意向を正しく理解し、具体的な生活支援の在り方や方向性を決め、細かに検討して見極め、適切なサービスにつながるよう、ケアマネージャーや各機関とも相談しながら、利用できるよう柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	業務的、機械的な支援とならないように、入居者様主体の生活の場であることを意識し、できる事、わかる事を大切に日々の暮らしに活かすことで、職員は「暮らしのパートナー」として共に関わり、暮らしの知恵や物事の捉え方等、入居者様からの学びや影響も受け、支えられている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	共に支え合うことを常に認識し、外出、外泊先での小さな様子、変化も聞き取りしたり、事ある毎に入居者様の状況を伝える中で、本人の思いをご家族と共に考え、本人にとってどのような支援をしたら良いのかを相談し、協力し合う関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の暮らしについて入居者様やご家族から聞き取りを行い、センター方式を活用して希望等を尊重している。面会時は居室で気兼ねなく話ができるよう、お茶を出したり、ご家族の協力の下、行きたい所へ出かけている。また、車いすのために中々外に出れない方には、ご家族の面会が多くなるよう言葉かけ等を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性、性格を把握し、一人ひとりが共に助け合い、互いを認め合って交流を深められるよう、雰囲気づくりを大切に、会話を仲介、代弁したり、場や関係を整えている。また、孤立しないように、状態に合わせて働きかけをし、何気なく他の入居者様の中に溶け込むようにも配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用中の関係性を大切に、契約が終了しても今までの信頼関係は続き、いつまでも相談にのって関係を維持できることを伝えており、環境の変化に混乱が生じないよう情報提供を行い、安心して新しい生活に移行されるよう支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で捉えた本人の言葉や表情、行動から思いや意向を把握できるよう、職員間で共有し、理解に努めている。また、本人の訴えが定かでなくても、その行動から内面的な気持ちも推測し、本人の立場に立って考えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら入居時にアセスメントを行い、本人やご家族、関係機関から情報を積み重ね、その方に合った支援ができるように努めている。また、長年の身に付いた生活スタイルを把握できるように、入居者様とのコミュニケーションを図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	暮らしの場面で「できる事、わかる事」に着目し、気づきを大切にしながら、個々の力の発揮に向けた支援を行っており、活動時の様子や一日を通しての気分の変化、BPSDに対して行った職員のケアも具体的に記録に残し、毎日の申し送り等でも把握しながら職員間で情報共有を行い、本人への総合的なケアへつなげている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の関わりの中で、言葉や行動等の気づきやモニタリングを通じ、月1回のミーティングで話し合いを行っている。ご家族からは面会時や電話等で希望を聞きながら、計画に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の表情や言動、気分の変化等は詳細に記録し、その日の暮らしの様子を情報共有できるようにしている。また、職員は関わりの工夫や新たな気づきに関しても記録し、支援に活かせる介護計画書を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	予防、支援、介助等、多種多様な力を得ながら、入居者様の特性や個々の状態に応じている。3館行事や関連施設、関連保育所との交流を深め、人間関係が広がって豊かになったり、楽しみとなっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に町内会長や民生委員、保健協力員の方々が参加してくださり、災害時には相互に協力し合い、消防団や消防婦人団の方々からも要護していただける体制となっている。地域住民を交えた認知症徘徊高齢者模擬訓練も実施されたことにより、共に認知症の方を見守り、支えることの意識が一層高まった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	代表者は母体医療機関の主治医であり、毎朝訪問して入居者様と面会、会話、スキンシップすることも精神的安定につながっている。また、不安要素がある時には直ちに相談に応じ、対応の指示を示している。受診時は職員が付き添ったり、必要時はご家族も立ち会い、情報の共有を図っている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間いつでも連絡、対応ができる非常勤の看護師を配置し、緊急時に備えている。日常生活から察する身体面、精神面での変化がある場合にも、相談、指示を仰ぎ、情報の共有をして、必要時には主治医と連絡を取り、健康での不安解消に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、入院前の生活について詳細に情報提供したり、定期的に面会することで混乱や不安を最小限にできるよう支援している他、ご家族と連絡をとりながら早期退院へ向け、退院後には体調が悪化しないよう、生活上の留意点や観察ポイント等を確認したり、助言を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期に向けた支援の方向性、ホームとしてできる事、できない事を説明し、都度、一人ひとりの健康状態を観察して、本人やご家族、主治医と連携しながら対応していく体制となっている。ただ、終末期になり、医療的処置を希望されるご家族とは十分に相談し合い、安心して最期を迎えられるよう、住み替えの支援も行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時事故発生マニュアルを日中・夜間想定で作成しておりミーティングで看護師による勉強会を各ユニットで行っている。状況によって受診、救急搬送が必要な場合は、各ユニットからの協力も得て職員間で連携を図り、落ち着いて行動することが大事であると指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	市の福祉避難所設置、運営マニュアル策定に基づいての説明会に出席し、災害時は市役所と協働しながら、円滑に、目的に沿った機能を果たすようにし、昼夜を想定した総合訓練を2回実施している。また、災害時対応マニュアルを作成し、主治医や各連絡機関、地域の消防団の連絡先を掲載した組織体系図を掲示している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	運営規定マニュアルや個人情報保護マニュアルに沿って、職員は一人ひとりを大切に、尊厳やプライバシーに配慮している他、入居様が快く思いを伝えられるよう、人柄や気質を重んじて、暮らしの様々な場面での関わりの中で傾聴する姿勢や態度に気をつけ、工夫をし、職員が優位な立場にならないように支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何気ない暮らしの場面においても、入居者の意向が最優先されるように、どのようにしたいのか聞き取りを行ったり、選択肢をわかりやすくお伝えし、自己の思いや希望に沿うように働きかけている。また、表情やしぐさ等を観察、推測しながら、入居者の能力に合わせて自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の予定にとらわれずに入居者の心身の状態やペースに合わせ、意欲や回復の兆し、経過を見ながら環境に配慮している他、状態が落ち着くまで待ったり、機会を見合わせる等して柔軟な体制で取り計らい、入居様が主体の指針で、安全で無理をさせないように援助している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時はこれまでの習慣や好みを把握しながら、適した服装やおしゃれとなるよう、準備の時から、出先までの気分も楽しんでいただくようアドバイスし、一緒に選んでいる。普段おしゃれや着飾ることに興味がない入居者様にも、過度になり過ぎない程度とし、福祉美容院の訪問や行きつけの美容院での散髪の予約の手配、送迎の支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で収穫された野菜を囲み、一人ひとりの力量に合わせて、入居者が作業に関わることができるよう、仕上げまでの行程方法を分割し、取り組み方法を考えながらサポートしている。作業の中では、日常の出来事や他愛のない話題を振りまき、職員と一緒に和気あいあいと行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面でバランス良く摂れるように、魚、肉、野菜、ミネラルを多く含む海藻類等を食材を豊富に取り入れながら、好みに合うよう、調理方法や味付けにも工夫し、食材使用チェック表を基に、新鮮な食材を使用している。献立には好みのメニューを盛り込んだり、見た目にも配慮して食欲増進に努めている。嚥下状態の低下が見られる入居者様には形状の調整を図りながら、安全面にも留意して、個々の食事、水分量を記録し、確保に向けて状態を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、食後には口腔ケアを支援し、肺炎予防や唾液分泌促進等、全職員が口腔ケアの重要性を認識している。歯ブラシやコップ等の消毒も定期的に行い、清潔を保持し、就寝前には入れ歯を外していただき、付けたままにすることで起こる歯茎への炎症の負担を軽減している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	24時間を通しての排泄記録表を基に、個々の排泄パターンを把握し、事前誘導により排泄の自立に向けた支援を行っている。排泄意識の薄い入居者様には行動や言動に目を向け、発するサインを見落とさないよう、さりげなく誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬だけに頼らず、日々の食事の中に乳製品や食物繊維を多く含む食材を取り入れたり、水分をできるだけ多く摂っていただくように意識し、提供している。また、体操や散歩等の適度な運動も組み入れ、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	個々の状態に合わせて入浴方法や入浴日を変更し、無理しないよう、柔軟に対応している。入浴が楽しみとなったり、関心を示していただくような言葉がけの工夫を重ね、精神面での配慮もしている。入浴前には血圧測定や体調観察を行い、入浴に生じる弊害にも考慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間に関わらず、居室や共有スペースで自由に休息を取っていただいているが、日中の作業や会話、日光浴等の活動の働きかけをしたり、その時の気候、気温に合った寝具の調整等も行い、夜間の安眠に向けている。また、寝付けられない方には向き合う時間を設け、穏やかに過ごしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の内容を把握できるように工夫しており、服薬の際には人名、日付け、飲み方等を確認し、声を出して、職員が何重にもチェック、記録している。服薬に変更がある時は都度カードの説明書を変更し、申し送りを行い、服用後の様子にも注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様やご家族から生活歴や趣味等を聞き、その情報を基に、昔から慣れ親しんだ作業や手伝い事を安全に行い、他者との関わりが円滑となるように取り組んでいる。楽しみ事として、アコーディオンで歌等を一緒にしてくださる音楽療法のボランティアの方が来られたり、関連施設で行われている認知症カフェに定期的に参加している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に沿った外出支援を行えるように、ご家族にも相談・協力を求めながら調整を図っているが、高齢や認知症の症状により、外出もままならなくなっているため、折りに触れ、個々の状態に合わせて、中庭や近隣散歩等で外に出る機会を設け、距離の長短や移動手段等にも合わせて負担軽減、安全にも配慮しながら進めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設管理となっている入居者様の金銭管理については、入出金が不信を抱かないような明確な流れとなっており、ご家族から確認、印をいただいている。買い物や外出時は、本人から支払いをしていただくような場面づくりや、様子を見守っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に合わせ、電話の支援をしている他、個々の状態に合わせ、電話の引き継ぎや、やりとりを仲介している。また、手紙や送り物等については、まずは一番に本人へ見せたり、代読することで、ご家族や知人とのつながりを職員が一緒になって分かち合っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の場所は台所と対面式となっており、作業をしながら入居者様とコミュニケーションを図ったり、様子を窺える造りとなっている。館内からは四季折々の景色や風情も楽しむことができる。また、感染防止を重視した環境整備を行い、エアコンや床暖房、カーテン、換気することで、光りや室温を調整し、快適に過ごせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや食堂は、穏やかでのんびりとした自由な場所となっており、その時々により、仲間同士で話をしたり、一人気ままな時間を持っている。職員は一人ひとりの表情や気分の状況を観察し、居心地良く過ごせる場の調整に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れた家具や大切な思い出の品を持ち込んでいただき、気持ちを高めたり、安心感を得られるようにしている。年を重ねる毎に、施設で作った飾り物や各行事での写真、記念品も増しており、その時の様子を垣間見たり、思いのまま過ごせるスペースとなっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーとなっており、各箇所には手摺りが設置されている他、日々の状態を観察し、個々に合わせて、危険だと思われる方の居室ドアや布団には、家族と相談し、鈴やカバーを取り付けて、安心して生活できるよう、住居環境を整えている。		